

中国雲南省におけるモン（ミャオ族）の服飾文化とその変化

—文山壮族苗族自治州文山県を中心に—

宮脇千絵

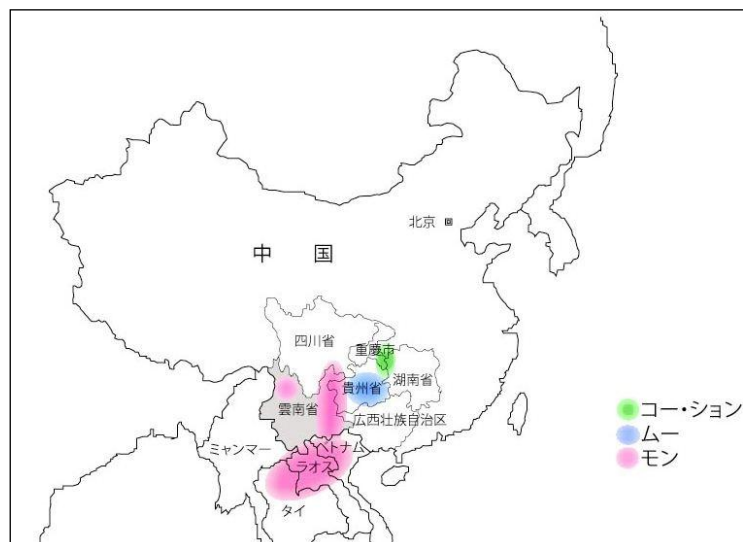
(総合研究大学院大学文化科学研究科地域文化学専攻・博士課程)

1. 雲南省の少数民族と服飾文化



2. モン（ミャオ族）について

- ・ミャオ族は中国で4番目に人口の多い少数民族。
- ・言語によって3つに大別。コー・シヨン（湖南省東部・湘西方言）、ムー（貴州省西部・黔東方言）、モン（貴州省東部、四川省、雲南省、東南アジア、欧米・川黔滇方言）。



3. 文山壮族苗族自治州のモンの服飾

- ・文山壮族苗族自治州。ベトナムと国境を接する。漢族と 11 の少数民族（チワン族、ミャオ族、イ族、ヤオ族など）。
- ・文山壮族苗族自治州には 7 グループのモンがいるとされる（モン・スー、モン・ジュア、モン・ボア、モン・ベイ、モン・ドウ、モン・ソウ、モン・スア）。それぞれの衣装は少しずつ特徴が異なるが、プリーツ・スカート、上衣、前掛け、腰帯、脚絆、頭巾から構成されること、その伝統的素材が大麻であることなどは共通する。

4. 服飾の変化の様相

- ・文山県 H 村（モン・ジュア）のある一家、3 世代 3 人の女性の衣装を時系列に並べて、その変化を詳しくみる。
- ・1980 年代：麻から綿への素材の変化と、装飾に毛糸を使用することが増える。
- ・1999 年以降：化繊布の使用の増加。
- ・2003 年以降：色に流行が生まれるとともに、全身に配色を揃える傾向に。
- ・2006 年以降：デザインの多様化。

→今回は素材の変化に着目する。

5. 麻の利用

- ・衣装の素材は麻（大麻）から綿や化繊へ。
- ・文山には清代に移入してきたモンが大麻を持ち込んだ。文山ではモン以外、大麻を栽培・利用する習慣を持たない。モンの布=麻布。
- ・1998 年に麻の栽培禁止令が発布される。しかし、栽培や麻の茎、繊維、撚り糸、布の所有は続いている。
- ・文山県 H 村にて麻の栽培と使用状況の聞き取り調査（2008 年）。76 戸中、栽培している世帯が 25 戸、栽培していない世帯が 51 戸。
- ・栽培していない理由：①他の仕事で忙しい、麻の栽培は大変。②まだ麻糸や麻布のストックがある。村内の家族が植えているから。③今は市場で布や服を購入できるから。④高齢化や若者の不在によって農作業をおこなうのが負担。⑤植えないのが時流。⑥栽培禁止令のため。
- ・栽培している理由：①トウモロコシの皮をくくるため。②布を織るため、服を作るため。③特に何にも使用しない。
- ・栽培しなくなって→女性の労働の負担減、重い衣装からの解放→うれしい。
- ・一方で麻がなくなって困ることもある。死者をあの世に送れなくなる。
「麻のくつがないとあの世へ行けない」「途中で虎や竜に食べられてしまう」

6. 死者が麻を必要とする理由

- ・モンにとって死とは、出生三日目に宿った父方の魂が身体から抜け出した状態。抜け出した魂は、あの世の祖先のいる場所にたどり着き、生まれ変わるときを待つ。葬送儀礼は、身体から抜け出した魂を、あの世の祖先のいる場所に送り届けるためにおこなわれる。
- ・葬送儀礼の順序
 - ・葬儀一日目：夜～、葬儀への協力を仰ぐ
 - ・葬儀二日目：弔問客の訪問
 - ・葬儀三日目：出棺、埋葬
 - ・埋葬から二日目の夜：ワ・クラン・クア（牛の供儀）
 - ・埋葬から三日目の朝：サオ・ンザン（墓参り）
 - ・埋葬から13日目：ワ・スー（死者の魂を迎える）
 - ・日程不定：ワ・ブリー（死者の魂を送る）
- ・葬送儀礼での麻の使用
 - ・死者が出る：20 cm四方の白い麻布で顔を拭く。麻の死装束、麻のくつ（わらじ、布状のものなど3足重ねる）を着用させる。
 - ・葬儀二日目：棺桶のなかの死者の指と、屋外の鶏を麻糸でつなぐ。
 - ・葬儀三日目：出棺のとき、死者の指と牛を麻糸でつなぐ。遺体に麻布の「布団」をかける。棺桶のなかに麻の繊維、糸、スカートなどを入れる。
 - ・ワ・スー：祭壇のしたにおかれた麻糸。死者の顔を拭いた麻布を燃やす。
 - ・ワ・ブリー：ゴウ・ブリー（竹を十字に組んだざるに死者の生前の上衣と頭巾をまとわせたもの）と、鶏や子豚を麻糸でつなぐ。
- ・葬送儀礼で死者を送るために歌われる歌にみる麻の重要性
 - ・死者は鶏と対をなして旅立つ。途中、竜と虎が口をあげ死者を食べようとする。そこで死者は左手に持った麻の塊で竜の口を塞ぎ、右手に持った麻の塊で虎の口を塞ぐ。毛虫山に着くと、死者は麻のくつをはいて、流水のようになごめく毛虫を乗り越える。途中、祖先と出会い「どのように来たのか」と問われるので、「麻のくつをはいて藁をふみ、草むらをこえてここに辿り着いた」と答える。天上の門にいる女神に麻の衣装を脱いで渡す。ついに祖先のいる場所に着き、祖先のスカートと上衣の裾をひっぱって幸福になる。
- ・ポイント
 - ①麻は、繊維、糸、布、服というさまざまな形状で使用されている。
 - ②麻は常に死者によりそっている。
 - ③麻は死者の魂に対して働きかけている。魂が無事にあの世の祖先のいる場所にたどりつくために不可欠。→麻は魂とともにあの世に行くものである。

「生きている人間は麻から離れることができない。だからあの世でも使うのだ。麻は生きている人間と死者が共通で使うものである」。「死者は身体とともに腐敗する布をまとわなければならない。燃やしたときに灰になる布でなければいけない。今の化繊布は腐らないし、灰にならない。一緒に腐敗したら死者と一緒にあの世に行くことを意味する」。

→死者は麻という素材にこだわり続けている。

7. まとめ

- ・一方で、生者は麻という素材にこだわる必要がない。そのためより便利な素材を使用するようになる。
- ・素材が変わっても「モンの服」であり続けるのはなぜか？
 - 「昔からあるかたちのもの」。
 - 生者は素材よりもかたち（シルエット）の継承に比重を置いている。

参考文献

Cooper, Robert(ed.)

1998 *The Hmong: A Guide to Traditional Lifestyles*, Times Editions.

Symonds, Patricia V.

2004 *Calling in the Soul: Gender and the Cycle of Life in a Hmong Village*, University of Washington Press.

曾益群・顔恩泉・呂賓

2004「雲南省苗族麻文化的變遷」許建初・安迪・錢潔（主編）『中国西南民族社区資源管理的變化動態』、雲南科技出版社、pp.39 - 47。

文山壯族苗族自治州苗族發展研究会（編）

2008『文山苗族』雲南民族出版社。

楊鳳華（編）

2005『苗族指路經・文山卷』雲南民族出版社。

楊渝東

2008『永久的飄泊一定耕苗族之遷徙的人類学研究』社会科学文献出版社。